



## 2月の聖句

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい  
ローマ信徒への手紙 12章15節

## 2月さんびか

イエスさまいるってほんとかな  
こどもさんびか改訂版 16

## わかちあう



園庭の木々は寒さに負けず、ひっそり着々と春への準備を進めています。登園すると即、花壇に植えた球根や野菜の生長を親子で見に行く姿があります。来る日も来る日も、土の上には中々変化が見られません…。それでも気長に、「いつか」出会うであろう「何か」を一緒に心待ちにする姿が、子や孫の育ちを見守る親や祖父母の姿と重なりました。

3学期始まってすぐ、年少は造形遊びを楽しみました。何をするかと思いきや、この寒空に「氷絵具で遊ぼう！」ですって。「おやおや、どうなる事やら」と思っていると造形担当:Y先生から「年少の先生達がしっかり考えての企画。私も楽しみです！」と連絡を頂きました。

思えば1学期に年中が、長い模造紙に氷絵具遊びをしたのです。それはそれは皆で思う存分遊びこみ、笑顔溢れる一時でした。夏の氷絵具は割合早く色水と化し、ブルーシートの上はカラフルに、長い模造紙は穴が開き…それはそれで面白い経験。子育て支援でも氷絵具の不思議さ、冷たさ、心地よさを味わいました。職員で体験をわかちあい、様々な感触遊びを体験してきた年少は、準備万端パワーアップ。保育室一面にブルーシートを敷き、皆裸足。机毎に3枚重ねの模造紙を貼り、周囲にガムテープで壁を造り、溶けた氷絵具が垂れないような工夫有り。氷絵具も製氷器のみならず、様々な色、形、大きさがあり、子ども達の感性を大いに刺激！老婆心ながら見に行くと、まァ！殆どの子ども達は嬉々として氷絵具の感触、色、形、大きさ、音、物質の変化、不思議さを友達と一緒に集中して楽しんでいました。歓声を上げる、黙々と向き合う、歌いながら悦に入る、友達の様子を眺める、各々の楽しみ方を見守りつつ、保育者達も大いに心が動き、響き合いました！

最後は数人ずつでお湯のバケツに冷えきった手を入れ…「あったか〜い」「ねえ〜」ほお〜とするのも束の間「うわぁ！」「手だ！手だ！」「キャハハハ」バケツの中では手の花満開、皆の笑顔も満開に！そこに2クラスの壁はなく、只一緒に遊ぶのが嬉しくて、冷たさ〜温かさ〜心地よさ、喜びわかちあう同士。先生達は言います。「小さい頃、冬に雪が降ると嬉しくて、冷たいけど雪遊びしたり、雪だるま作ったり、氷作って遊んだりしたの、楽しかったじゃないですか？最近雪もそんなに降らないし、年少さんって雪見たり、氷で遊んだりしたことあるのかな？って」成程そうだった！幼な心を大切に、子どもの視点、保育の醍醐味、再確認！

先日、安田式体育遊びY講師が年中外遊びの時に飛び入り参加。勝ち抜きじゃんけんから始まる遊具トンネルぐり→鉄棒でお尻フリフリ→三角塔登ってタッチ→股下じゃんけん→と突然のサーキット遊びに大興奮、意欲満々年中さん。新たな関りに顔がほころびます。また、初めての「子ども会議」では意見がバンバン出たそうな。面白い頼もしい！乞ご期待。

年長は冬の風物詩、お当番扮する郵便屋さんが大人気。各学年に備えられた小さな郵便ポストには、毎日葉書がわんさかと。それを回収し、スタンプを押し、クラスに分けて配達すると、どのクラスでもアイドルなみの歓待ぶり。郵便屋さんが去った後も「ありわとう〜」「郵便屋さ〜んまた来てね〜」嬉しい声がこだまする、幸せわかちあう二葉です。【園長】